

2024年5月16日

エネルギーハブとしてのアゼルバイジャン（3）天然ガスの輸入

今回はアゼルバイジャンが輸入している天然ガスを取り上げます。アゼルバイジャンの天然ガスの輸入量はここ3年で増加しており、2023年の輸入量はおよそ23億立方メートルでした。主な輸入元は、多い順にトルクメニスタン、ロシア、イランとなっています。

図は直近3年間(2021年から2023年)におけるアゼルバイジャンの天然ガス輸入量及び主な輸入元の推移を示しています。2021年の主な輸入元はイランのみでしたが、2022年にトルクメニスタンからの輸入が急増し、2023年には15億立方メートルと輸入量の過半数を占めています。

この背景として、2021年11月のアゼルバイジャン、イラン及びトルクメニスタンにおける天然ガスのスワップ契約締結、2022年から同契約に基づく天然ガスのスワップが開始されたことが上げられます。アゼルバイジャンは、同契約に基づき、トルクメニスタンがイランに供給する天然ガスと同量のイラン産天然ガスを、イランから受け取っています。同スワップにより、アゼルバイジャンは、自国産の天然ガスに代わって海外産の天然ガスをパイプラインで輸出することが可能となります。また、トルクメニスタンは中国以外の輸出先の多角化、イランはインフラが不十分なイラン北部におけるガス不足の問題解決、と3者にメリットがあります。なお、アゼルバイジャン国家統計委員会から公表されたデータによると、2022年にアゼルバイジャンがイランから輸入した天然ガスの量は前年に比べて大きく減少していますが、これはアゼルバイジャンがイランから受け取った天然ガスの量の大部分はスワップ分のため、トルクメニスタンからの輸入にカウントされているためです。

同じく2022年にはロシアからの天然ガスの輸入が始まり、2023年にはその輸入量が大幅に増加しています。原油と同じく、経済制裁により行き場を失った天然ガスがアゼルバイジャンにも流入していると見られます。他方、上記スワップと同様にアゼルバイジャンにとっても自国産の天然ガスの輸出量を増やさずに、天然ガスの輸出量を増やすことができるというメリットがあります。

アゼルバイジャンの天然ガスの生産は、引き続き増加していますが、原油と同様に、将来は減少する可能性があります。そのため、アゼルバイジャンはアブシェロン・ガス田の生産開始や新たなガス田の探索を進めています。また、カスピ海に新たなパイプラインを建設し、同パイプラ

インを通じて、トルクメニスタン産の天然ガスをアゼルバイジャンに輸出する「カスピ海海底パイプライン」構想もあります。この構想を実現するためには、カスピ海沿岸諸国の同意が必要となりますが、今後起こりうる地政学的変化やエネルギー状況の変化により、状況が変化することも考えられます。

アゼルバイジャンとしては、原油と同じく、天然ガスにおいても、エネルギーハブとしての機能を高めつつあります。アゼルバイジャンとしては、引き続き、周辺国との関係に留意しながら、中央アジア・コーカサス地域におけるエネルギー市場でプレゼンスを維持しようという意図がうかがえます。

(以上)

